



日本学術会議 学術フォーラム
「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢－地球惑星科学の国際連携・国際協調」
2025年7月14日

持続可能な社会づくりへの挑戦 － IGU (国際地理学連合) の取り組み －

鈴木康弘 (名古屋大学)

Recent Conferences



The 34th IGC 2020: postponed for a year due to the COVID-19 pandemic and held online in 2021



The 35th IGC 2024 in Dublin



IGU Centenary Paris Congress 2022



Istanbul Regional Conference 2026

IGU の歴史

- 1871年 第1回 国際地理学会議 (International Geographical Congress, at Antwerpen)
- 1922年 IGU 国際地理学連合 発足 at Brussels、日本は当初から加盟
- 初代会長は Prince Roland Napoleon Bonaparte、初代副会長 山崎直方

- 1949年 日本学術会議 がIGU に加入
- (日本学術会議地球惑星科学委員会 IGU 分科会 = IGU 日本委員会)

- 1957年 東京・奈良で Regional Conference (日本学術会議共催)
- 1980年 東京で第24回 国際地理学会議 IGC開催
- 2013年 京都会議 (Regional Conference)
- 2023年 大阪で Thematic Conference

- 日本からのIGU 役員
- 副会長：山崎直方1922、多田文男1956-1960、木内信蔵1972-1980
- 吉野正敏1992- 1996、田邊裕2000-2008、氷見山幸夫2010-2016
- 会長：氷見山幸夫 2016-2020 (その後、前会長職 2020-2024)

- 100数カ国からナショナルアカデミー等が参加
- 例：オーストリア、オーストラリア、ハンガリー、ポーランド、ルーマニア等の科学アカデミー
- ベルギー、スイス等の王立科学アカデミー、カナダ国立科学会議、英国 王立地理学会、
- アメリカ科学技術アカデミー

IGU STRATEGY 2020-24

- 抜粋 -



- I **The excellence of the discipline** based on new and appropriate concepts and methods,
- II **The role of geography as a major science** in global debates on climate change and social inequity, and must promote actions of its members in this context.
- I 新しい適切な概念と方法に基づく地理学の学理の卓越性
- II 気候変動や社会的不平等に関する世界的議論における地理学の役割と活動

- Highlighting and further promoting the work of IGU Commissions and Task Forces in relation to key global initiatives, including inter alia, the **UN Sustainable Development Goals (SDGs)**, the **UN Decade of Ocean Science for Sustainable Development, Disaster Risk Reduction, Paris Climate Action, Habitat-III**, and **ISC Future Earth**.
- 国連持続可能な開発目標 (SDGs)、国連持続可能な開発のための海洋科学の10年、災害リスク軽減、パリ気候行動、ハビタットIII、ISCのフューチャーアースなどに焦点

- Developing and strengthening our **contributions to geographical education** in general, and to **UNESCO's Education for Sustainable Development (ESD)** in particular.
- 地理教育全般、ユネスコの持続可能な開発のための教育 (ESD) への貢献

「サステナビリティのための科学」



**International Geographical Union
Union Géographique Internationale**

www.igu-online.org  

GEOGRAPHY: THE SCIENCE FOR SUSTAINABILITY

What is Geography?

Geography is the discipline that attempts to explore how environments emerge by natural processes, how societies produce, organize, use and misuse environments, and how societies themselves are influenced by the environments in which they are located. Thus, geography aims to study both natural and human realms and their interactions, focusing on space, places, and regions, addressing and questioning both short-term and longer-term processes and their resultant patterns.



https://www.satimapsonline.com/satellite_image_maps/planet_earth_world_satellite_imagery_wef_mrcr1.htm

What is the contribution of Geography to sustainability science?

The contribution of geography to society is multifold: it provides people with a better understanding of the places, regions and countries in which they live, as well as of other countries and regions and of the planet at large. It further adds the spatial and integrative dimension and holistic perspective to various planning, forecasting and decision making processes. At the interface of the natural social sciences, Geography lies at the very core of sustainability science.



<https://thesaidforchange.in/ia/11es-awp/prens.com>

近年の研究委員会運営委員会メンバー

委員長

- 地形学 (2024～2028) 鈴木康弘 (名古屋大学)
- 災害リスク (2016～2024) 小口 高 (東京大学)
- 気候学 (2016～2021) 松本 淳 (東京都立大学)
- 政治地理学 (2014～2016) 山崎孝史 (大阪公立大学)

副委員長

- 都市 (2016～2020) 松井圭介 (筑波大学)

委員

- 災害リスク (2024～2028) 小口 高 (東京大学)
- 島嶼 (2024～2028) 山崎孝史 (大阪公立大学)
- 気候学 (2020～2028) 飯島慈裕 (東京都立大学)
- 土地劣化 (2020～2028) 小口千明 (埼玉大学)
- 地理学史 (2020～2028) 島津 俊之 (和歌山大学)
- 都市 (2020～2028) 堤 純 (筑波大学)
- 地名 (2016～2024) 渡辺浩平 (帝京大学)

事務局長

- 地形学 (2024～2028) 齊藤 仁 (名古屋大学)

国際地理オリンピック (iGeo)

第21回(2025年度)

日本国内第1次選抜試験応募者 1,399名

- 対象:16~19歳
- 筆記試験、マルチメディア試験、フィールドワーク、プレゼンテーション
- 設問例:“Describe measures to make the region sustainable from the perspective of water resources and the environment.”(水資源と環境の観点で地域を持続可能にする方策について記述しなさい)



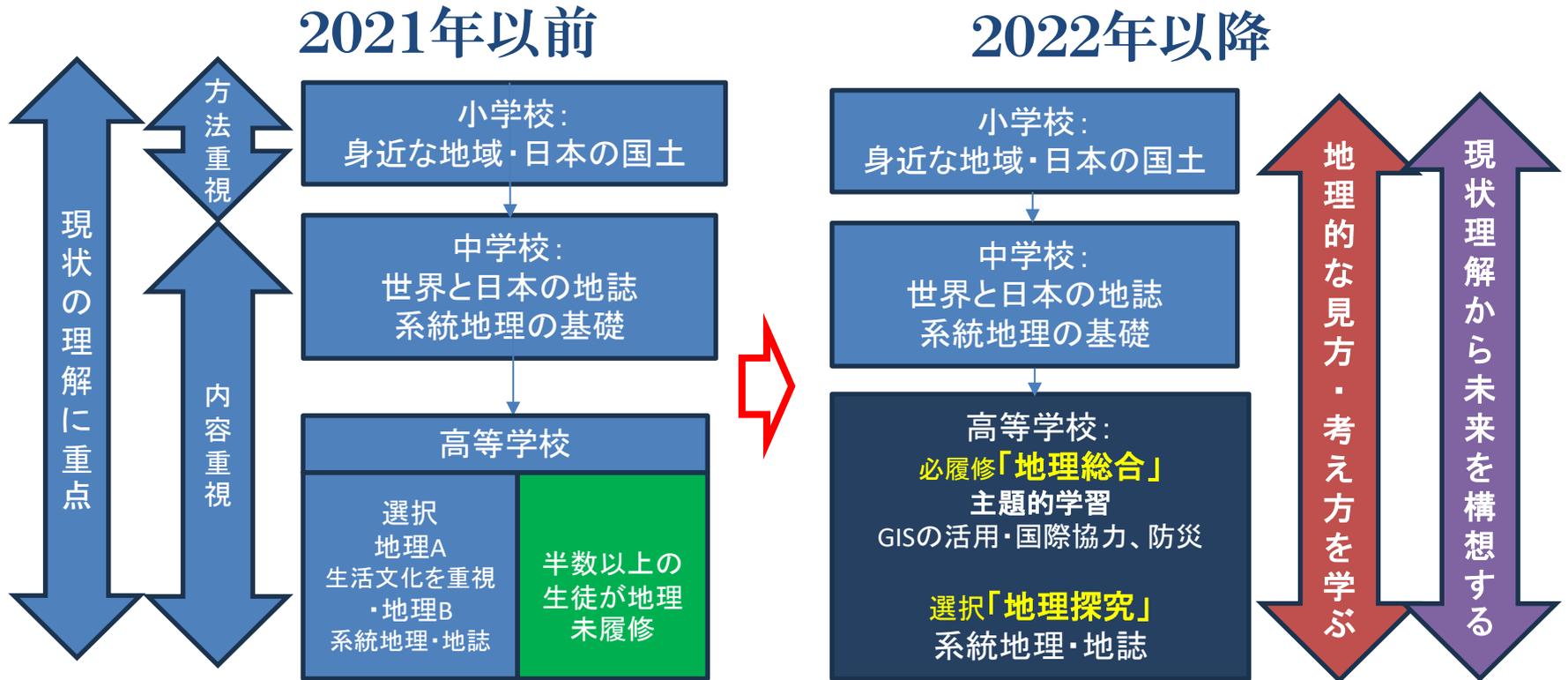
文部科学省表敬訪問(2024)



iGeo2013 京都大会



日本の学校地理教育の充実(2022年以降)



人々の暮らしが見える
「生活文化」

特色 1

- 臨場感ある写真と因果関係がわかる本文記述
- 地理学習の基礎を習得できる学習項目
- 各地域の事例を通して国際理解を深める構成

本冊子 p.6-11

災害発生のメカニズムから対策まで学べる
「防災」

特色 3

- 災害発生のメカニズムがわかる模式図と解説
- 実践的な防災行動が身に付くアクティビティ

本冊子 p.16-19

国際協力の視点から社会づくりを考える
「地球的課題」

特色 2

- 具体事例をもとに地球的課題を考察する構成
- 国際協力が見える 特設「持続可能な社会づくりに向けて」

本冊子 p.12-15

実践的な地理的技能が身に付く
「地図とGIS」

特色 4

- 地図やGISの活用方法を段階的に学べる展開

本冊子 p.20-21

「地理総合」
教科書の構成
帝国書院ホームページ
より

「地理探究」の教材事例－地球環境－

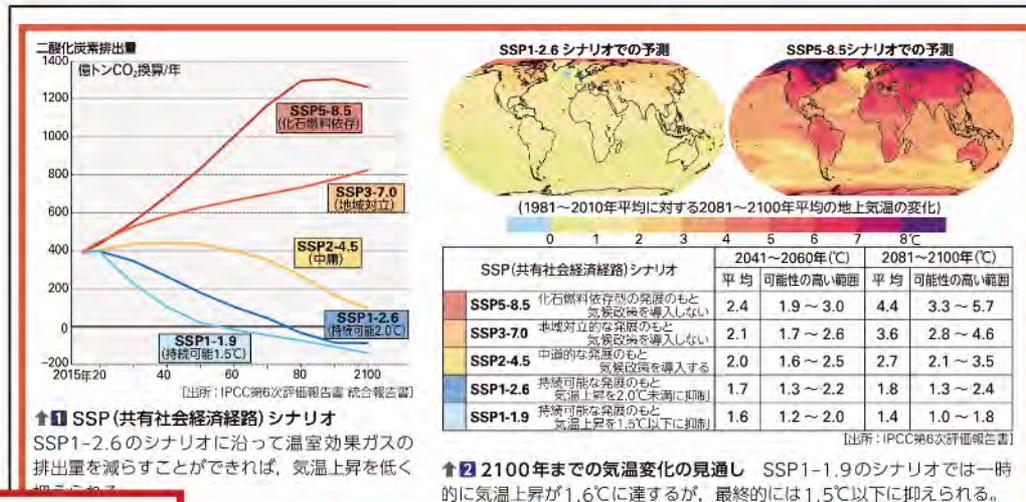
第I編 系統地理的考察

第1章 自然環境 ⑤地球環境問題

地球環境問題の現状と対策について、

教 p.70-71

「地理探究」
山川書店(旧二宮書店)
ホームページより



地球環境問題の最大の関心事である地球温暖化に6ページをあてて詳細に解説。このページでは、IPCCのシナリオをふまえて、「緩和」と「適応」という二つの側面から対策を考察します。

4 地球温暖化への対策

複数の温暖化シナリオ IPCCの第6次評価報告書では、将来の社会経済の発展傾向に関する仮定をもとに、五つのSSP(共有社会経済経路)シナリオ(図1)を示しており、これに基づいて21世紀末までの気温変化が予測されている。シナリオでは、持続可能な発展のもとでただちに対策をとり温室効果ガスの排出を最大限に抑制できた場合は、気温上昇を約1.4°Cに抑えられるとされている(図2: SSP1-1.9)。しかし、化石燃料に依存する発展を続けた場合は、21世紀末の世界の平均気温は約4.4°C上昇するとされている(図2: SSP5-8.5)。

① SSP(共有社会経済経路)シナリオ 将来の社会経済の発展傾向を示した共有社会経済経路と、放射強制力(気候変動を引き起こす強さ)を組み合わせたシナリオ。第6次

IGUをめぐる国際情勢と日本の課題

2020年以降の学術の進展・国際情勢の変化

- UN Sustainable Development Goals (SDGs)
- Disaster Risk Reduction (DRR)
- Climate Action
- UN Habitat
- ISC Future Earth
- UNESCO Geodiversity
- ISC Regional Focal Point for Asia and the Pacific

日本が取り組むべき課題

- SDGs・DRR実現に向けた文理融合型研究・教育
- アジア・パシフィックからの発信